都市再生整備計画事業　事後評価シート
嬉野温泉･嬉野温泉駅周辺地区

令和5年3月

佐賀県嬉野市

様式２－１　評価結果のまとめ

都道府県名	佐賀県	市町村名	嬉野市	地区名	嬉野温泉・嬉野温泉駅周辺地区			面積	155ha
交付期間	平成29年度～令和3年度	事後評価実施時期	令和4年度	交付対象事業費	855.8	国費率	0.482		

1）事業の実施状況

		事業名
当初計画に位置づけ、実施した事業	基幹事業	公園（駅前公園）、地域生活基盤（駅西シンボルロード緑地／まちなか広場）、高次都市施設（観光文化交流センター）
	提案事業	官民連携整備手法の検討、空き店舗改修事業、本通り整備検討事業、事業効果分析(事後評価)、景観ガイドライン策定事業

		事業名	削除/追加の理由	削除/追加による目標、指標、数値目標への影響
当初計画から削除した事業	基幹事業	道路（本通り線）	【削除】 歩行者の回遊性を高めるための社会実験を実施し、地元との協議を重ねた結果、事業を削除	影響なし： 回遊性や滞留性を備えた他施設（地域基盤施設及び高次都市施設）の整備による補完により、本事業（道路改築）の不実施による指標への影響はない
	提案事業	レンタサイクル検討事業	【削除】 インターネットを利用したシェアサイクルの実証実験を別事業で開始したことから、事業削除	影響なし ：他事業関連において同様の活動を実施済
	提案事業	循環バス導入検討事業	【削除】 コロナ禍で来訪者が減少したことと、アフターコロナに向けて別事業で自動運転の検討を開始したため、事業削除	影響なし ：他事業関連において同様の活動を実施済
	提案事業	誘うまち・魅せるまちづくり活動推進事業	【削除】 開催時期について関係団体と調整がつかず、駅周辺施設の整備後に実施したいため、事業削除	影響なし ：他事業関連において同様の活動を実施済
新たに追加した事業	基幹事業	高質空間形成施設（街路灯・照明灯／シェルター）	【追加】 当初は社会資本整備総合計画（防災・安全）の効果促進事業に位置づけていたが、景観等にも配慮しながら駅周辺地区を一体的に整備することで地区の価値や魅力を高めることを目的に、都市再生整備計画へ事業を移管	影響あり 目標①に関連する整備方針の更新 ：嬉野市の新たな玄関口として、誰もが安全・安心で快適に利用しやすい駅前広場の整備に向けて、街路灯、シェルターの整備を行う。
	提案事業	足湯等施設整備事業	【追加】 嬉野温泉駅周辺の導入機能としての温浴施設整備の提案に基づく事業追加。観光資源である温泉を活かした施設を整備することにより来訪者へ温泉の魅力をアピールし、また住む人・訪れる人の交流の場、憩いの場となることが期待される	影響なし

交付期間の変更			交付期間の変更による事業、指標、数値目標への影響
	当　初	平成29年度～平成33年度	―
	変　更	平成29年度～令和3年度	

2）都市再生整備計画に記載した目標を定量化する指標の達成状況

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度	1年以内の達成見込み		効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
指標1	まちづくり活動参加者数	人／年	74	H27	104	R3	―	334	○ 866.7%	あり なし	－ －	官民連携手法などのまちづくり活動を契機に、多くのまちづくり活動の展開が進んだことで参加者の増加につながり、数値目標の達成に至っている。	－
指標2	嬉野温泉街周辺のバス停の降車人数	人／月	4,174	H27	4,174	R3	―	4,075	× (97.6%)	あり なし	 ●	駅周辺整備や空き店舗対策等により地区の魅力が高まりつつあったがコロナ禍の行動制限により利用者が減少。	令和5年10月
指標3	宿泊客数（国内）	千人／年	507.0	H26	507.2	R3	―	292	× (57.6%)	あり なし	 ●	駅周辺整備や空き店舗対策等により地区の魅力は高まりつつあるがコロナ禍の行動制限により急激に国内外の旅行者が減少。	令和5年10月
指標4	「歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性」に関する満足度	ポイント	2.71	H22	3.00	R3	―	2.89	▲ 62.1%	あり なし	 ●	社会実験結果を基に、温泉街内の歩道の拡幅を取りやめたため既存の歩行者環境は改善しなかったが、駅周辺では区画整理事業が進み一定の改善に寄与した。	－

3）その他の数値指標（当初設定した数値目標以外の指標）による効果発現状況

	指　標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	数　値 モニタリング	数　値 評価値	目標達成度※1	1年以内の達成見込み	効果発現要因（総合所見）	フォローアップ予定時期
その他の数値指標	宿泊稼働指数		ポイント	69.9	H31			―	89.6			駅周辺の開発で新幹線開業を支えたことにより効果が発現。	－

4）定性的な効果発現状況

新幹線開業にあわせたまちづくりが進んだ結果、アメリカ大手のホテルなど民間開発が進んでいるほか、道の駅「うれしの　まるく」では開業1ヶ月で土日は1,000人の来館者があるなど、様々な波及効果が生まれている。
また、未来技術社会実装事業により「デジタルモール嬉野」が開設され、メタバース空間への展開の試みが始まっている。

5）実施過程の評価

	実施内容	実施状況		今後の対応方針等
モニタリング	なし	都市再生整備計画に記載し、実施できた	－	－
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	－	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	－	
住民参加プロセス	本通り線整備事業*1) 景観ガイドライン策定事業*2)	都市再生整備計画に記載し、実施できた	●*1)	本通り線については今後も歩行者空間の快適化に向けた調査研究を継続する。
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した		
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった	●*2)	
持続的なまちづくり体制の構築	嬉野市未来技術地域実装協議会*1) PPPによる医療センター跡地と隣接する西公園(約2.8ha)の一体的利活用*2) うれしの未来づくり塾の開催*3)	都市再生整備計画に記載し、実施できた		*1)VR／AR、AI、5G、自動運転などの未来技術を活用した事業に着手する *2)令和10年度の供用開始に向けて事業者公募に向けた準備を実施する *3)今後も持続可能な観光を担う人材育成と塾生同士のつながりで地域連携を目指す
		都市再生整備計画に記載はなかったが、実施した	●*1)2)3)	
		都市再生整備計画に記載したが、実施できなかった		

様式２－２　地区の概要

嬉野温泉・嬉野温泉駅周辺地区（佐賀県嬉野）　都市再生整備計画の成果概要

まちづくりの目標	目標を定量化する指標		単位	従前値	基準年度	目標値	目標年度	評価値	達成度
1.嬉野市の新たな玄関口となる嬉野温泉駅の拠点性を創出し、令和4年新幹線開業に向けて地域住民の取り組みを通じ集客効果を高める。 2.嬉野温泉駅と嬉野温泉街を結ぶ仕組みを創出し、新たな人の流れを生みだし地区の回遊性を高める。 3.観光拠点となる嬉野温泉街の再生を進め、目標①、目標②と連動し訪れる人の増加及び生活機能の確保を目指す。	指標1	まちづくり活動参加者数	人/年	74	H27	104	R3	334	○
	指標2	嬉野温泉街周辺のバス停の降車人数	人/月	4,174	H27	4,174	R3	4,075	×
	指標3	宿泊客数（国内）	千人/年	507.0	H26	507.2	R3	292.0	×
	指標4	「歩行者の交通環境や地域の防犯対策などの安全性」に関する満足度	ポイント	2.71	H22	3.00	R3	2.89	▲

駅前広場と駅前公園の整備

温泉口

観光文化交流センター

駅前公園整備
【公園】

嬉野温泉駅周辺地区
土地区画整理事業

都市計画道路新幹線
嬉野温泉駅2号線

空き店舗改修事業

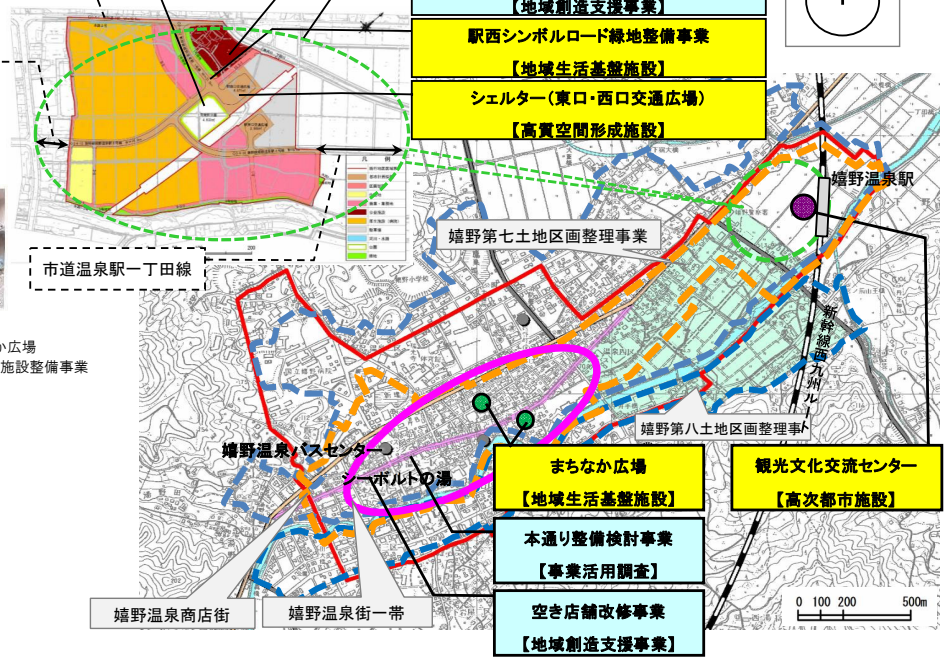
左：まちなか広場
右：足湯等施設整備事業

足湯等施設整備事業

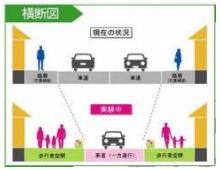
その他幹線道路等の整備

嬉野消防署横につながる道路

凡　例
- 基幹事業
- 提案事業
- 関連事業



本通り整備検討事業



温泉街内の
一方通行社会実験

歩行者の回遊性を高めるため、本通りの一方通行の効果と課題を把握する社会実験を実施。
（平成30年10月）

実験時に観光客、地域住民、旅館、商店へアンケートを行った結果、安全面・にぎわい創出面で評価が分かれた

【区域全体を対象とした事業内容】

事業活用調査
- □事業効果分析

まちづくり活動推進事業
- □景観ガイドライン策定事業

地域創造支援事業
- □官民連携整備手法の検討

その他関連する周辺施設等への波及

UPLIFT SHIMOJUKU

ホテル予定地(写真右側)

嬉野医療センター(写真中央)

まちの課題の変化	●課題1.交通結節機能確保…駅前広場とシンボルロードが整備され、交通結節点機能を確保することができた。また、観光文化交流センターや道の駅がオープンし、情報発信や交流機能が強化された。 ●課題2.魅力的な空間創出の仕組みやまちづくりの機運向上…未来技術実装協議会等による取り組みが進んでいるほか、駅周辺の一体的な民間開発が進みつつある。 ●課題3.温泉街への人の呼び込み…駅と温泉街を結ぶアクセス経路などの確保等が進んだが、コロナ禍で来訪者が減少したことや自動運転の検討が進んでいることから新たな交通機能の整備に至らなかった。 ●課題4.宿泊客の減少…空き店舗改修事業や本通り整備検討事業といった動きは見られたが、観光客の回遊性は途上となっている。また、コロナ禍による観光業の不振もあり、空店舗等が増加している。
今後のまちづくりの方策（改善策を含む）	●嬉野温泉駅前の機能維持のための取り組み…店舗立地等を誘導。近隣自治体と連携した広域的誘客促進や、メタバース活用等新たな観光まちづくりを展開。まちづくり会社や各種団体等と連携し、地域と観光客をつなぐ持続可能な独自の魅力を創出。 ●嬉野温泉駅と温泉街の移動や回遊性向上…道路や公園・広場等の美化に努めるほか、「地域公共交通計画」に基づいた公共交通ネットワーク見直しや、自動運転の導入に向けた検討、温泉街の空き店舗対策等を推進。 ●温泉街の活性化と宿泊客数の維持…地域内の各産業と連携した魅力創出、「嬉野版DMO」による観光まちづくり推進。 ●官民連携による民間事業者の参画…旧医療センター跡地と隣接する都市公園との一体的な利活用を推進。「うれしの　まるく」のより魅力的で効率的な施設運営を検討。

社会資本総合整備計画　　事後評価書

令和05年03月27日

計画の名称	嬉野温泉駅から始まる、誘う・魅せる・親しむまちづくり		
計画の期間	平成２９年度　～　令和０３年度　(5年間)	重点配分対象の該当	
交付対象	嬉野市		
計画の目標	九州新幹線西九州ルートの開業を契機に、嬉野温泉駅を新たなスタートポイントとして、訪れる人を温泉街へ誘うとともに癒しで迎える都市の形成に向けて、「嬉野温泉駅から始る、誘う・魅せる・親しむまちづくり」を大目標に掲げ、以下の目標を達成する。 目標①：嬉野市の新たな玄関口となる嬉野温泉駅の拠点性を創出し、令和4年新幹線開業に向けて地域住民の取り組みを通じ集客効果を高める。（都市再生整備計画より） 目標②：嬉野温泉駅と嬉野温泉街を結ぶ仕組みを創出し、新たな人の流れを生みだし地区の回遊性を高める。（都市再生整備計画より） 目標③：観光拠点となる嬉野温泉街の再生を進め、目標①、目標②と連動し訪れる人の増加を目指す。（都市再生整備計画より） 目標④：拠点へのアクセス性を高める道路や拠点間を結ぶ道路整備を進めることで、地域連携を高める道路環境の向上を図る。		

全体事業費（百万円）	合計（A＋B＋C＋D）	550	A	550	B	0	C	0	D	0	効果促進事業費の割合C／（A＋B＋C＋D）	0	%

番号	計画の成果目標（定量的指標） 定量的指標の定義及び算定式	定量的指標の現況値及び目標値 当初現況値 （H28当初）	中間目標値 （H30末）	最終目標値 （R3末）
1	新幹線の開業効果を高めるとともに、地域賑わいや魅力形成など嬉野温泉駅の拠点性に向けたまちづくり活動が進むことから、「まちづくり活動参加者数」を指標に設定する。			
	誘うまち・魅せるまちづくり活動推進事業（地域デザイン会議）等におけるまちづくり活動への参加者数 （人／年）	74人／年	100人／年	100人／年
2	駅と温泉街を結ぶ、道路ネットワークや交通手段の確保等により駅から温泉街へ来る人の増加が図られることから、「嬉野温泉街周辺のバス停の降車人数」を指標に設定する。			
	バス会社が計測する、嬉野温泉街周辺のバス停の降車人数年間乗降客数（嬉野温泉駅方面から温泉街へアクセスする路線のうち、嬉野温泉BC（嬉野温泉）、体育館前、公会堂前のバス停を対象） （人／月）	4174人／月	4174人／月	4174人／月
3	嬉野市の新たな魅力形成や嬉野温泉街の再生と嬉野温泉駅を連動することで宿泊客数の維持が図られることから、「宿泊客数（国内）」を指標に設定する。			
	嬉野市市勢要覧において計測している宿泊客数（国内） （千人/年）	507千人／年	507千人／年	507千人／年
4	拠点へのアクセス性を高める道路や拠点間を結ぶ道路整備が進む事で、道路環境の改善が図られることから、「道路環境に対する満足度」を指標に設定する。			
	住民アンケート調査における「市街地内や集落内の身近な道路」に関する満足度（ポイント） （　「満足5点」「やや満足4点」「普通3点」　「やや不満2点」「不満1点」で算出した時の平均点）	3ポイント	3ポイント	3ポイント

備考等	個別施設計画を含む	－	国土強靱化を含む	－	定住自立圏を含む	－	連携中枢都市圏を含む	－	流域水循環計画を含む	－	地域再生計画を含む	－	避難確保計画の策定		避難行動要支援者名簿の提供	

※バス停の降車人員、宿泊客数は、嬉野市及び全国の人口減少もあり、推計結果として減少傾向にあるが、本事業を通じて、現状維持（増加）することを目標と設定※満足度調査の従前値は、平成22年の嬉野市都市計画マスタープラン市民アンケート調査の結果で市全体の平均値。目標数値においては、市平均よりも向上する事を目指して設定

案件番号：　0000476015

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） H29	H30	H31	R02	R03	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
都市再生整備計画事業	A10-001	都市再生	一般	嬉野市	直接	嬉野市	－	－	嬉野温泉・嬉野温泉駅周辺地区都市再生整備計画	駅前広場、緑地、観光文化交流センター	嬉野市	■	■	■			163		－
											小計						163		
道路事業	A01-002	道路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	市町村道	改築	市道温泉駅一丁田線	L=310m	嬉野市	■	■				23		－
	A01-003	街路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	S街路	改築	都市計画道路新幹線嬉野温泉駅２号線	L=62m	嬉野市	■					7		－
	A01-004	道路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	市町村道	改築	市道下野辺田西山線	L=770m	嬉野市					■	67		－
	A01-005	道路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	市町村道	改築	市道本村下宿線	L=170m	嬉野市					■	190		－
	A01-006	道路	一般	嬉野市	直接	嬉野市	市町村道	改築	市道築城大橋線	交差点改良	嬉野市					■	100		－

案件番号： 0000476015

A 基幹事業

基幹事業（大）	番号	事業種別	地域種別	交付対象	直接間接	事業者	種別１	種別２	要素となる事業名（事業箇所）	事業内容（延長・面積等）	市区町村名／港湾・地区名	事業実施期間（年度） H29	H30	H31	R02	R03	全体事業費（百万円）	費用便益比	個別施設計画策定状況
		一体的に実施することにより期待される効果																	
		備考																	
											小計						387		
											合計						550		

案件番号： 0000476015

事　後　評　価

○事後評価の実施体制、実施時期

事後評価の実施体制	事後評価の実施時期
嬉野市都市計画審議会	令和5年3月
	公表の方法
	市役所ホームページで公表、新幹線・まちづくり課（嬉野庁舎）で閲覧

○事業効果の発現状況

定量的指標に関連する 交付対象事業の効果の発現状況	■まちづくり活動参加者数 　都市再生整備計画事業で実施した官民連携手法などのまちづくり活動を契機に、多くのまちづくり活動の展開が進んだことで参加者の増加につながり、数値目標の達成に至っている。 ■嬉野温泉街周辺のバス停の降車人数 　都市再生整備計画事業で実施した駅周辺整備や空き店舗対策等により地区の魅力が高まりつつあったがコロナ禍の行動制限により利用者が減少。 ■宿泊客数（国内） 　都市再生整備計画事業で実施した駅周辺整備や空き店舗対策等により地区の魅力は高まりつつあるがコロナ禍の行動制限により急激に国内外の旅行者が減少。 ■道路環境に対する満足度 　複数の道路改良が実施できず、環境改善が見られなかったことが直接的な要因。しかし、駅周辺では、新幹線開業にあわせて道路環境の改善が進み、一定の効果がみられる。
定量的指標以外の交付対象事業の 効果の発現状況（必要に応じて記述）	新幹線開業にあわせたまちづくりが進んだ結果、アメリカ大手のホテルなど民間開発が進んでいるほか、道の駅「うれしの　まるく」では開業1ヶ月で土日は1,000人の来館者があるなど、様々な波及効果が生まれている。 また、未来技術社会実装事業により「デジタルモール嬉野」が開設され、メタバース空間への展開の試みが始まっている。

○特記事項（今後の方針等）

●嬉野温泉駅前の機能維持のための取り組み…店舗立地等を誘導。近隣自治体と連携した広域的誘客促進や、メタバース活用等新たな観光まちづくりを展開。まちづくり会社や各種団体等と連携し、地域と観光客をつなぐ持続可能な独自の魅力を創出。
●嬉野温泉駅と温泉街の移動や回遊性向上…道路や公園・広場等の美化に努めるほか、「地域公共交通計画」に基づいた公共交通ネットワーク見直しや、自動運転の導入に向けた検討、温泉街の空き店舗対策等を推進。
●温泉街の活性化と宿泊客数の維持…地域内の各産業と連携した魅力創出、「嬉野版DMO」による観光まちづくり推進。
●官民連携による民間事業者の参画…旧医療センター跡地と隣接する都市公園との一体的な利活用を推進。「うれしの　まるく」のより魅力的で効率的な施設運営を検討。
●未整備の道路計画区間の整備推進…国・県と連携し道路整備を進めるとともに、観光地の魅力を感じさせる整備方法を検討。

○目標値の達成状況			
番号	指標（略称）		
	目標値／実績値		目標値と実績値に差が出た要因
1	まちづくり活動参加者数		
	最　終 目標値	100人／年	新幹線開業や駅周辺でのまちづくりを契機に未来技術（VR／AR、AI、5G、自動運転など）を活用して嬉野観光を賑やかにするため、「嬉野市未来技術地域実装協議会」を設置し、嬉野市の発展に取り組むためのまちづくり活動に対する民間事業者や地元関係団体からの参加者数が増大したため。
	最　終 実績値	334人／年	
2	嬉野温泉街周辺のバス停の降車人数		
	最　終 目標値	4174人／月	令和2年以降はコロナ禍による行動制限等により、目標年度となる令和3年度末時点では全国的に公共交通利用が大幅に減少しているため。
	最　終 実績値	4075人／月	
3	宿泊客数		
	最　終 目標値	507千人／年	令和2年以降はコロナ禍による行動制限等により、目標年度となる令和3年度末時点では全国的に旅行客が大幅に減少しているため。
	最　終 実績値	292千人／年	
4	道路環境に対する満足度		
	最　終 目標値	3ポイント	道路環境に対する満足度を目標値3.27ポイントに設定していたが、実績値は3.04ポイントで目標値を達成することができなかった。要因としては、嬉野温泉駅周辺については、新幹線開業に合わせて道路環境の改善が進んだが、今後改修計画を検討している嬉野温泉街内の道路環境の改善が、現時点では進んでいないためと考えられる。
	最　終 実績値	3ポイント	